

海に恋する海なし県 岐阜“海恋”プロジェクト(CFB・海と日本2022)

海と日本プロジェクト in 岐阜県実行委員会

<内陸県民が海に恋し 海洋ごみ対策を考える>

【全体】 内陸の岐阜県では、海洋ごみ問題を自分ごととして捉えにくい環境。海につながる身近な「清流・長良川」などの川にも触れながら、海にときめき、海洋ごみ削減に向けた活動や取り組みにつなげていく事業を展開。

- 【詳細】
- ・ラジオ・タブロイド新聞を活用し、県内全小学生へ海洋ごみの周知へ向けた学習コンテンツを提供
 - ・オリジナルエコトレーを活用したリサイクルキャンペーン
 - ・岐阜県のごみ拾い可視化サイトと連携。若者を中心にアプリを活用した清掃活動、オンライン清掃を実施。 など

2022年度 実施状況について

■ 学習ラジオ放送
 <課題・背景>
 with コロナの給食スタイル黙食時のラジオ放送を活用。



- ・概要：県内9市町の小学校へ届けている岐阜放送ラジオ番組を活用。海洋ごみの情報を5月に4回放送。
- ・目的：黙食中に校内放送でラジオ放送を流すことで、音だけしかないのでこそ、子どもたちが集中して聴取できる。
- ・場所：小学校、ぎふチャコラジオ
- ・連携先：9市町の教育委員会、小中学校長会（岐阜市、大垣市、山県市、瑞浪市、本巣市、岐南町、笠松町、揖斐川町、大野町）
- ・効果：約40000人聴取、理解度95%超

■ 学習タブロイド紙
 <課題・背景>
 小学生へラジオだけでなく視覚的にも海洋ごみ問題を届ける



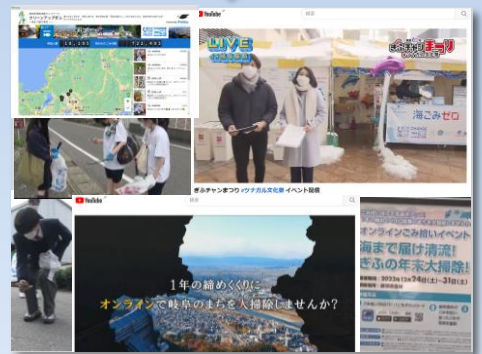
- ・概要：県内の全小学生に年4回配布されるタブロイド紙「マナビのトビラ〜親子で学べるチャレンジ新聞」(岐阜新聞社発行)。秋の海ごみゼロウィークにあわせて9月発行で海洋ごみについて掲載。
- ・目的：ラジオ連携。紙面を利用して海洋ごみについて学習の話題を楽しく、わかりやすく届ける。
- ・場所：小学校
- ・連携先：新江ノ島水族館、世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ
- ・効果：全小学生(約11万人)に配布

■ オリジナルエコトレー
 <課題・背景>
 海なし県の中で海洋ごみを意識し、削減する行動を促す。



- ・概要：2023年6月と9月の2回、企業と連携。オリジナルエコトレーを製作。スーパーマーケットで昨年よりも2倍の計10万枚使用し、啓発パネルでキャンペーンを展開。回収率も調査した。
- ・目的：買い物客へ海洋ごみへの意識を高め、トレー回収のアクションを起こしてもらおう。
- ・場所：県内スーパーマーケット22店舗
- ・連携先：エプコ
- ・効果：回収率=6月は前年比113%。9月は前年比減も期間前後よりは多かった。

■ 岐阜県連携 データ可視化サイト利用促進
 <課題・背景>
 海洋ごみ対策へ取り組みやすい状況をつくる。岐阜県が可視化サイトを制作→連携開始



- ・概要：岐阜県が海洋ごみ対策のためにデータ可視化ウェブサイトを制作。若年層に浸透させるため、高校生約300人が参加の清掃活動を県と連携し2回実施。12月24日〜31日は年末大清掃と題しオンラインイベントを企画
- ・目的：特に若年層の海洋ごみ意識を高める。
- ・連携先：岐阜県
- ・効果：ピリカ利用参加者 約16800人増
 *開設(22年5月)から23年3月末の比較
 オンライン期間を設けた12月は前後の月に比べて2倍以上のごみが拾われた。

その他：プロジェクションマッピング 学習イベント、スポGOMI甲子園

メディア露出



6/3 岐阜放送「フォーカスぎふ」



8/25 NHK「まるっと!ぎふ」



8/23 CCN「ぎふわか(生放送)」



10/26岐阜放送「情報FRESH」

その他：TV 14本 新聞 4紙 掲載

2022年度の課題とこれからの展望

1年間の活動を通し、参加者の声からもまだまだ内陸県民にとって海洋ごみへの意識の希薄さが際立った。もっと自分ごととして取り組んでもらえるよう、自治体や長良川流域の企業、学校と連携し、海洋ごみ発生メカニズムに内陸県の私たちの暮らしも密接に関わっていることを調査、周知する。